

関連項目：教育活動プラン①、④、⑤

スマイルカードの活用で主体性を育てる

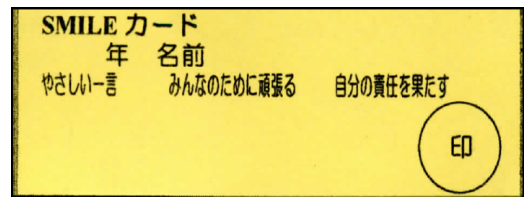
目的

本校の児童は、主体的な行動をとることがやや苦手です。そこで、異学年交流活動等でスマイルカードを活用しての賞賛の機会を設けることで、主体的な取り組みができる児童を育てることにしました。

内容

● スマイルカード作成の目的

スマイルカードとは、主体的な取り組みがみられた児童をその場で評価するカードです。その場で手渡すことにより、この場面での、この言葉かけや行動がみんなのために役立つんだなあという認識を深めさせ、褒められた喜びを味わわせることを目的に作成しました。



● 異学年交流活動（フレンドグループ活動）でのスマイルカードの活用

全校生を1班8～9人のフレンドグループ班として分け、様々な活動に取り組む活動です。フレンドグループ活動は次の手順で実施しています。

- 1 教員が「活動で育てたい力」の分析を行い、支援のポイントをはっきりさせる。
- 2 児童が班毎に活動のめあてを決める。
- 3 グループ毎に実践する。
- 4 自分の実践を振り返る。（おうちの人からもコメントをもらう。）

学校農園で栽培したジャガイモを使っでの収穫カレー祭りを紹介します。

この祭りでは、保育所や幼稚園の園児も招き、共に収穫できた喜びを分かち合い、保・幼・小連携のもとでのなかまづくりを推進しています。

この活動では、上級生はリーダーシップを発揮し、カレーを美味しく作り、招いた園児達に喜んでもらわなければなりません。また、中学年の児童は、上級生の指導をよく聞き、てきぱきとした行動を取らなければ美味しいカレーづくりができません。下級生は、招いた園児達のお世話をしなければいけません。それぞれの児童が主体的に動く場が設定された活動です。

このような活動の中で、担当教員によるスマイルカードを使っでの励ましや、賞賛が行われ、児童の主体性を高めていきます。



● スマイルカードもらったよ！

スマイルカードをもらった児童の声を紹介します。

- 役立つことをしている子にカードが渡されると聞いていたので、がんばってもらおうと思った。
- もう一度みんなのために役立つことをしてもらおうと思った。
- カードをもらったことが、とてもうれしかった。
- みんなのために役立っていることがうれしかった。

成果

児童の発言や行動について、スマイルカードを使ってその場で評価することにより、児童が自分の発言や取った行動が他の人達に役立つものであったことに気づき、これからの自分の役割を自覚するようになりました。また、思いやりの心も芽生えています。